

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191700127		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム パンジー		
所在地	埼玉県鴻巣市上谷43-1		
自己評価作成日	令和4年5月16日	評価結果市町村受理日	令和4年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年6月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様一人一人のペースに合わせ、個別に合ったケアをし残存機能を維持するため、生活の中で出来ることを見つけ、どんなに小さなことでもご自身でやっていただき、その方らしい生活ができるように支援しご家族様や地域のふれあいを大切に、利用者様が地域の一人と感じて生活できるよう支援致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員間のコミュニケーションが図られ、各フロアのつながり、職員間の連携のもと、一つひとのケアを丁寧に、細やかなところまで手が行き届いている。また、コロナ禍にあっては、事業所内でのイベントの充実に取り組み、「食」にこだわり、入居者の好きな物、寿司などをメニューに取り入れ楽しんでいただいている。
- ・運営推進会議は、コロナ禍の中、事業所で報告事項を作成し、市役所に出かけ、担当者に報告する形式をとられ、相談をしたり他の事業所の情報などを聴いたりすることで、事業所の運営にも活かされている。
- ・目標達成計画の達成状況についても、災害対策において職員の平準化が図れるよう取り組み、全員が避難訓練を経験し、同じように対応できるよう、数回に分けて訓練を実施するなどに取り組みされたことから目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はわかる所に提示し理念を念頭に置き支援している	理念の考え方をもとに、入居者のこれまでの生活ぶり、習慣の継続を最優先に、できることはやっていたが、残存機能の保存に努められている。時間がかかっても「待つ姿勢」と「80%の介護」を基本にケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ流行の為散歩等禁止になり出来ない。	コロナ禍の厳しい環境の中で、時間を決め、少人数で散歩に出かけ、近くの大家さんとの挨拶は現在も続けられている。また、地域から訪問理容を取り入れ、髪をカットしながら入居者と楽しく会話されるなどの交流にも取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事の時に近隣の方にお知らせし参加して頂ける様に努めているがコロナ流行のため出来ない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者が市役所に行き書面でやっている。	運営推進会議は、コロナ禍の中、事業所で報告事項を作成し、市役所に出かけ、担当者に報告する形式をとられている。その中で困っていることの相談や他の事業所の情報などを聴いたりすることで、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者と連絡を取り良い協力関係を築けるようにしている	市担当者とは日常的に情報交換を行い、ワクチン接種の情報などはメールでスムーズに流されている。また、市とのウェブ会議にも参加し、更に、介護保険課以外の部署とも様々な連携を図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような事が拘束につながるか委員会にて話し合い拘束をしないケアの実行に努めている	定期的に身体拘束廃止委員会を開催し、議事録を作成し、職員の研修も実施されるなど、考え方の共有が図られている。ドラッグロックやスピーチロックなどがテーマにあげられ、入居者の動きを遮るような言葉使いなどには特に注意が払われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細な言動でも虐待になることを理解し虐待の無いように注意をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学び活用できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行った上で契約を行い疑問点がある時は納得できるまで説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望がないか定期的に尋ね要望等実行できるように努めている	「散歩に行きたい」、「〇〇が食べたい」、「居室での面会ができないのか」など、入居者・家族からの要望は丁寧に聴くよう努められている。事業所の方針に合わせてできる範囲での対応と様々な工夫が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見のある時は管理者に伝え反映できるように努めている	職員意見は言いやすい風通しの良い関係が築かれ、発言以外に気が付いたことは文書に記載され、小さなことでも職員間で共有されている。職員間の連携も図られ、食事やレクリエーションへの職員の意見、アイデアも出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適切な環境を保つ様注意している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ流行の為本部の研修が無く参加できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流は難しいが管理者が全体の会議に参加し話を共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・支援者から聴き取り安心になるようケアをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族に聞き取りし支援出来る様にしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	確認・提案する場合選択できるようにきちんと話し行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは行っていただき全てを行うのではなく出来ることは出来るようにケアしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会にこれない方には定期的に連絡し現状を話している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為難しい。	趣味の刺し子などを楽しまれる入居者がおられ、作品なども飾られている。また、以前の仕事を活かして洗濯物たたみなどに従事されたり、家族と一緒に選挙に出かけるなど、これまで慣れ親しんできたことを継続できるよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体を把握し関わり、関係を保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の関わりは難しくほとんどないが連絡等あれば支援していきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を傾聴し思いや希望を出来る限りプランに入れていく。	入居者が孤立しないよう、こちらから話しかけ、話しやすい環境を作ってあげることに気配りがなされている。一人でいたい気持ちなども表情から読みとり、様々な方法を考えながら思いや意向の把握に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に生活歴等聴き取り支援するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調・心身状況の把握に努め、共有出来るように細かく記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを主体とし意見を出し合い計画を作成している又参加できない人にも書き出してもらいカンファレンス時に話し合う	チームでのケアプラン作成に重きを置き、カンファレンス時の職員の意見、参加できなかった職員からの考えを取り入れ作成されている。更に、ケアマネジャーが入居者一人ひとりと話をして要望を伺い、現状に即したプラン作りがなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過・生活記録等申し送り・送りノート等を通し情報共有をし計画更新をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な考えで取り組む意思を持ち提供する事に努めるがニーズに対応しきれない事も多い		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行の為に外気浴しながらコミュニケーションをとり季節を感じられる様になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と連絡を取りながら受診できる様支援している	日常的には往診医と訪問看護で健康管理が行われている。かかりつけ医への受診は家族同行が基本だが、家族だけでは難しい症状の時は、職員が同行し、医師との情報共有を図り、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護に応じて相談しアドバイスを頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現状看護サマリーかご家族様に聞くしかできない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様及び往診医・訪問看護と連携を取り方針に沿う支援をしている	常に家族、医師、ケアマネジャーとで段階ごとに話し合い、将来予想されるリスクなどについて説明し、情報の理解と共有が図られている。医療が常時必要な時は療養型病院への移行の情報提供などもスムーズに実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを提示し備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した避難訓練は定期的に行っているが地域との連携は来ていない	事業所の環境に考慮し、定期的な避難訓練は「夜間の火災」を最重点に実施され、一部の入居者にも参加いただき、初期消火の訓練や避難場所や避難方法の確認などが行われている。また、ハザードマップの確認も実行され、食料品や水の備蓄などの点検も行われている。	災害はいつ発生するか予測できないと想定されることから、災害発生時、全職員が「自分は何をするのか」を理解し行動できるよう訓練を繰り返し行われることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を意識して、支援に心がけている	プライバシーの確保については排泄や入浴時への配慮に心がけ、人格の尊重には、特に「個人情報漏らさない」を基本に対応されている。また、「〇〇さん、～しますね」などの入室の際の声掛け、室内での支援なども順守されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望を聞き自己決定出来る様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切にし個人に合わせた過ごし方が出来る様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の入浴や起床時等希望を聞いて衣類を選んでいただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・下膳はできる方にはお願いしている	彩りや食事形態に考慮された日常の食事に加えて、職員のアイデアで「氷の器でソーメン」や入居者も参加した食事レクなどを開催し楽しんでいただいている。そのほかにも敬老会などの行事には刺身や鰻なども提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせた食事量・水分量が摂取できるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態や能力に合わせた支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らしトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行う	病院退院後入居されたとき、オムツ使用からトイレ誘導を基本に支援されたケースもあり、自立に向けた支援が行われている。失敗されても、そのことには触れず、羞恥心への配慮と尊厳を守るようさりげない対応がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し飲食物の工夫や運動への働きかけ等に努めてる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように職員の都合や時間等決めず利用者様にそった支援に努めている	職員と1対1の個浴で、入浴時間にもある程度の希望に応じ、入浴中はコミュニケーションを大切に職員との会話を楽しまれている。自立の入居者には背中洗いや洗髪以外は自分でやっていただき、見守りを中心に支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時の状況に応じて休息をしたり安心して入眠できるように努める		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法や用量について理解し服薬の支援・症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様に個々の生活歴や力を活かした役割や嗜好品楽しみごとに気分転換等出来る様に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状できないがコロナが明けたら希望に沿い支援したい	行動が制限される中で、散歩外出や車で初詣やお花見などに出かけられ、車窓から楽しまれている。その他にも職員が様々な工夫を行い、コンビニでの買い物や家族の協力で受診帰りに食事を楽しまれるなどの支援が行われている。	外出支援は入居者の気分転換にとっても大切と想定されることから、コロナの状況を見ながら、機会を増やし、家族からの要望にも応えられるよう取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が使用している物品が無くなりかけたとき代理又は利用者様と購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない家族にはこちらから連絡し近状等はなしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室に時節を感じる物を一緒に作り飾って、季節を感じられるようにしている	桜、梅雨、七夕など季節の飾りを職員と一緒に作られ、飾られている。入居者それぞれの居心地の良い場所が確保され、日向ぼっこをしながら読書をされたり、好きなことを楽しめる姿も見られ、また、換気や消毒、清掃などはこまめに行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人の時間を大切にし職員と展示物等を作成し孤独にならないように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの衣替えや馴染みの物を持っていただき快適な空間に鳴るようにしている	入居者こだわりの家具や季節を感じるものが持ち込まれたり、花の世話をされる入居者もおられ、居室では自由に生活していただいている。また、安心・安全のための動線の確保や危険なものは置かないなどの配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住みやすい環境作りに努めて、出来ることは行っていたる様に支援している		

(別紙4(2))

事業所名:トウルーケアGHパンジー

作成日: 令和 4年 7月 19日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員が避難訓練に参加できていない。	参加できていない職員で避難訓練を行う。	時間と勤務の調整、余裕を持ちスケジュールを組む。	6ヶ月
2	49	外出支援が少ない。	全入所者が外出できるようにする。	コロナ禍のため外に出るのは難しいが、ドライブにて気分転換して頂くよう、勤務の調整や各フロアでのカンファレンスを行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。